

宮城県及び山形県の連携に関する主な取組状況について (令和7年度)

令和8年8月

平成30年3月に策定した「新 宮城・山形の連携に関する基本構想 未来を共に創る 新MYハーモニープラン」では、これまでの成果や課題、両県を取り巻く社会経済情勢の変化、新たな連携の芽や可能性等を踏まえて「施策の4つの柱」を掲げ、その下に各般の施策を両県が連携し進めている。

〈主な連携取組〉

〔1〕相互の助け合いのもと、安全・安心で、多様な人材が活躍する「地域・暮らし」の実現

(1) 災害に強い防災先進地域の形成

- ・防災訓練において、相互参加・参観により、応（受）援体制の確認を行うとともに、緊急連絡先の相互把握、訓練評価などを実施
- ・ドクターヘリの広域連携体制を構築し、両県間で11件の相互応援を実施
- ・家畜伝染病発生状況や防疫体制整備についての情報共有を実施

(2) 災害に強く持続可能な、自然と共生する暮らしの実現

- ・宮城県、山形県、福島県の自治体に参加する鳥獣害防止広域対策協議会に参加し、情報交換や市町村向けの助言を実施
- ・宮城県、山形県、福島県等の自治体が連携して、産業廃棄物の不法投棄等の監視や対応力強化のための合同研修会を実施

(3) 震災復興で活躍した若者をはじめ、誰もが活躍できる地域の実現

- ・仙台・松島地域及び村山地域における一層の相互交流を図るため、両エリアの市町村職員を対象に「仙山交流連携促進会議」を開催
- ・最上（山形県）、雄勝（秋田県）、大崎（宮城県）の3地域が連携し、「東北のへそ」FAMツアーの実施、インスタグラムによる東北のへそフォトコンテスト等の魅力発信、誘客事業を実施
- ・両県の連携を推進するため、「宮城・山形スタディバスツアー」を実施

〔2〕新たな発展の原動力となるインバウンドをはじめとした「観光・交流」の展開

(1) 戦略的なインバウンド推進による交流人口の拡大

- ・東北観光推進機構を中心に東北各県が連携し、オンラインセミナーや商談会、在留外国人と連携した情報発信等を実施
- ・東北観光推進機構を中心に東北各県が連携し、タイ現地旅行会社に対して東北各県のプレゼンテーションや商談会、交流会等を実施

(2) 多彩な資源と機能を活用した競争力の高い観光地域づくり

- ・東北自動車道の利用者をターゲットにSAにおいて合同観光PRイベントを実施

- ・農泊や農家レストラン、自然・文化体験等のグリーン・ツーリズム情報の発信、受入態勢を整備

(3) 戦略的な海外市場開拓による輸出の拡大

- ・宮城県産の梨、はくさいと山形県産のブドウ、りんごを海上輸送で仙台港から香港に輸出する実証実験を実施
- ・両県の日本酒を取扱う海外バイヤーやソムリエを招請し、酒蔵見学や蔵元との試飲交流会を実施

〔3〕イノベーションの創出や成長期待産業の集積による活力ある「産業・経済」の振興

(1) 世界最先端技術の研究開発拠点の形成と成長期待産業の集積

- ・東北6県及び新潟県の産学官により組織された「とうほく自動車産業集積連携会議」が中心となり、自動車関連産業の集積促進に向けた活動を実施
- ・山形県、宮城県、岩手県の工業系試験研究機関が連携し、共同研究と会議の開催により、技術レベルの向上と情報共有の実施
- ・両県の食品製造業者や6次産業化に取り組む農林漁業者が、製造・販売する加工食品等を小売・卸売業のバイヤーに提案する商談会を実施

(2) イノベーションの創出等による産業の活性化

- ・両県が参画する東北情報通信懇談会において、ICT利活用セミナー等を開催

〔4〕国内外との大交流を進め、リダンダンシー機能を担う「交通基盤」の形成

(1) 多様で重層的な環状交通ネットワークの形成促進等

- ・災害時におけるリダンダンシーの強化や産業・経済などの交流基盤となるインフラ整備に向け、政府への要望等を実施
- ・石巻新庄道路の早期事業化に向けて、みちのくウェストライン「石巻新庄道路・新庄酒田道路」宮城・山形・4団体連合整備促進期成同盟会を組織し、国に対し要望活動を実施
- ・両県が参画する仙山線整備促進同盟会において、仙山線の利便性向上に向けた働きかけを実施

(2) 東北のゲートウェイ機能を担う両県の港湾、空港の利便性の向上と機能拡充

- ・各港湾の整備・振興を促進することを目的とし、東北地区港湾整備促進協議会において政府要望を実施
- ・仙台空港国際化利用促進協議会の場において、プロモーションへの協力等について検討を実施